

2018-8-7 記 島川謙二

「渡辺隆喜先生を囲む座談会」

実施日 2018年8月2日(木) 13:00~16:50
参加者 27名(他サークル参加者2名)
場 所 新所沢公民館

連日の暑さにもめげず8月2日(木)の午後、「野老澤の歴史をたのしむ会」の8月の例会が新所沢公民館で27名が出席して開かれました。お互いに「全く暑いねえ」「いやになるわねえ」などと挨拶をかわしながら映画の上映を待ちます。当日の行事は3部構成です。

- ・午後1時から95分間 DVD鑑賞 映画「赤貧洗うがごとき 田中正造と野に叫ぶ人々」
- ・午後3時から4時50分 渡辺隆喜先生を囲む座談会 「日本近代史と田中正造」
- ・午後5時すぎから 暑気払い(新所沢「天狗」にて)



映画「赤貧洗うがごとき 田中正造と野に叫ぶ人々」

田中正造(1841~1913)は、明治中期に公害史の原点ともいふべき「足尾鋇毒事件(1890年~)」に地元農民たちとともに立ち向かい、明治天皇に直訴しようとした「下野の農民」です。

彼が倒れたとき持っていた信玄袋には新約聖書、ちり紙、原稿のほか小石が3つ入っていたそうです。それらが彼の全財産だったとか。50年以上つれそった奥さんと実際くらししたのは、わずかに3年ほどで、いかに彼が東奔西走していたかがわかります。

この映画は、「谷中村廃村 100年企画の田中正造ドキュメンタリー映画」として制作されました。正義感強いがやや向こう気がつよい青年正造は投獄されますが、そこで読書し勉強して、やがて県会議員、衆議院議員なり、ライフワークの公害反対運動に身を投じるのです。

資本主義成立期と田中正造

渡辺先生は経済史の観点から、近代史とは資本主義と国民(=市民)の成立史のことであり、明治国家は果たしていかなる資本主義と国民を生み出したのかを、田中正造を通して探りたいと講義を始められました。

わが国における最初の公害事件といわれる渡良瀬川流域、谷中村などをおそった「足尾鉍毒事件」と戦った田中正造。その「田中正造研究」が戦前、戦後どのように推移してきたか、渡辺先生は講義を展開されました。

「自然破壊への抵抗者」といった旧来の評価から資本主義、近代国家に抵抗する「自治的平民」という側面を評価する方向へ変わってきたといえます。田中正造が生きた資本主義成り立ち期という歴史的立ち位置です。

足尾銅山を古河鉍業が買収してから富国強兵、殖産興業の国策にのって、新鉍脈の発見もあり生産量を急速に増大し、全国トップの生産になります。買収8年後の明治18年には全国産銅中のシェアは39.2%、明治24年には40.1%に達し、足尾銅山の銅がわが国の主要な輸出品となっています。それは世界の工業化の進展による電線需要に応じたものでした。

公害への企業と行政の責任

わが国の公害と企業との関係という視点では、4大公害病といわれる①チッソによる熊本水俣病、②昭和電工による新潟阿賀野川流域の第2水俣病、③三井金属鉍業による富山のイタイイタイ病、④四日市化学コンビナートによるぜんそくが明らかになっています。

「足尾鉍毒事件」は、まさに100年にわたるわが国の資本主義の発展、高度成長期と結びついており、古河鉍業との公害防止基本協定は1976年に締結されました。

公害をまき散らして発展した企業、それを放置、適切に対応してこなかった行政（地域、国家）という構図が改めて示されています。



講師 渡辺隆喜先生



受講生のみなさん

講義は、田中正造の青少年時代から県会議員時代、衆議院議員時代、天皇直訴の試み、谷中村事件など72才でなくなるまでの彼の行動、言動を歴史との関わり合いを明らかにしてすすめられました。また鑑賞した映画についても、引用したり、時には注文や感想を加えたりしながら・・・。

正造は投獄されて、そこで新約聖書を読み、キリスト教やキリスト教関係者と接する事により思想的にも変わっていったのです。

石牟礼道子の訴え

聞き語りによる小説「苦海浄土」で水俣病を社会に訴えた石牟礼道子。1969年にこの著書が出たとき若かった私は早速買って読んで感動しました。石牟礼道子は代表作の「苦海浄土」は文明の病として描いたもので

あり、また「椿の海の記」は近代化で失われる前の、人と自然が共にある豊かなくらしを描いたものであるといわれています。

「苦海浄土」で『おそろしか病気でござすばい。人間の体に入った会社の毒は。』と地元にくらすひとりの主婦として石牟礼道子は書くのです。

5時すぎからの暑気払いは、渡辺先生も出席されて、いろいろ質問も受けられ、まさに「暑気払い」となりました。私も5月のトルコ旅行での初の「トークショー」海外公演につづき、「野老澤の歴史をたのしむ会」におけるはじめての「トークショー」をご披露し笑ってもらいました。

7時すぎ解散し、まだ暑さが残るなか家路につきました。 (完)

アロハでトークショー

